KSKPゆめごよみ風だより 第３種郵便物承認 通巻12629号　2024年3月6日発行
編集人　特定非営利活動法人　ゆめ風基金事務局
（〒533-0033大阪市東淀川区東中島1-13-43-106）TEL06-6324-7702

ゆめごよみ風だより106号

INDEX（見出し）

・追悼　山田　太一さん
・能登半島地震　現地調査報告
・被災地から
・リレーエッセイ　災害と障害者　第79回
・ゆめ風30周年企画
・応援団からこんにちは！vol.8
・カンパをいただいた団体/事務局の動き
・会計報告
・各地からの風だより

追悼　山田　太一さん

「男たちの旅路・車輪の一歩」の思い出

堤　愛子

脳性マヒ、車いす使用のピア・カウンセラー。高校生の頃からフリーライターとして、「脳性マヒ児の教育」「われら人間」「月間障害者問題」などに記事を書く。現在自立生活センター「町田ヒューマンネットワーク」理事長

2023年11月29日、脚本家の山田太一さんがお亡くなりになった。89歳だった。このとき私は、たまたま山田さんと対談をした44年前の「福祉の時代」のビデオを見返しており、その最中に山田さんの訃報を知り、不思議なご縁に衝撃を受けた。

●コラム「迷惑って何？」

私が山田太一さんに初めてお会いしたのは、1978年の6月か7月、当時関わっていたミニコミ紙「月刊障害者問題（以下「障問」と略。1976年5月創刊）の「2周年の集い」だったように思う。「障問」は、ポリオ（脊髄性小児マヒ）の車いす障害者、本間康二さんが編集長の、タブロイド判の新聞だ。

本間さんはそれ以前から山田さんと親交があったようで、山田さんのインタビュー記事などもたびたび掲載していた。その縁で山田さんも「障問」をていねいに読んでくださっていた。「2周年の集い」の頃、すでに「男たちの旅路・車輪の一歩」(1979年11月放送)の構想が進んでいて、本間さんの車いす故のさまざまな体験談と共に、私の記事も一部参考にさせてもらっている、とのことだった。

当時の私は、まだ自力歩行ができ（現在は車いす)、脳性まひの友人たちの車いすを押して町に出る機会が多く、そのたびに「すいません、お手伝いお願いします」と見知らぬ通行人に「声かけ」をしていた。「迷惑をかけることを恐れるな」、そう自分自身にも言い聞かせながら、電車を利用していた仲間たちのことを、私は「障問」21号（78年1月）のコラムに書いている。題して「『迷惑』って何？」。その一部を紹介したい。

（前略）世の人々よ、考えてほしい。あなた方が何の罪の意識も感じずに吐く「人に迷惑を掛けない人間になれ」という言葉が、常識が、どれほど多くの障害者を狭い空間と劣等感に閉じ込め、果ては自殺や親子心中にまで追い込んできたことか。（中略）「障害者はもっと人々に”迷惑”をかけるべきだ」と居直っている障害者でも、人にものを頼むのに何らかの心の負担を感じているのだ。（中略）そのシンドサをあえて引き受け、「わがままもの、自己主張の強い奴」という汚名を着ていこうとしない限り、今の社会での障害者の生活圏の広がりと自立はあり得ないのだ。（後略）

当時23歳の私の、今思えばなかなか勇ましいコラムだが、山田太一さんの脚本に活かされている。故・鶴田浩二演じるガードマンが、「君たちは、社会に迷惑をかけないようにと思うことで、自分を小さくしているように見える。だが、必要な迷惑、ぎりぎりの迷惑はかけてもいいんじゃないだろうか」と車いすの青年を諭す場面である。

●障害のない人たちも共感

だが、当時の私はこの台詞を鶴田浩二に言わせたことが不満だった。

翌80年2月、NHK教育テレビの「福祉の時代」で、「車輪の一歩」を巡って山田さん、本間さんと 3人で鼎談する機会があった。その中で私は「『迷惑をかけてもいいじゃないか』という言葉は、障害者自身がぎりぎりの思いの中で生み出した考え方。健常者が障害者を諭す形で出てくるのはおかしい」と主張した。

「言いたいことはよくわかる。でも、テレビドラマで障害者にこのセリフを言わせると、お茶の間の視聴者の反発を買うだけ。鶴田浩二が言うからこそ、説得力があるんだよね」と、山田さんは淡々とおっしゃった。私は、それ自体が障害者差別だと感じた。

「障害者がその言葉を使っても、反発されない社会になってほしい」という私の言葉に、山田さんはうなずいておられたが、あれから44年経ったいまでも、「障害者が言ったら社会は反発する」という状況は、あまり変わっていない気がしてならない。

ただ、いま振り返ると、「障問」を通じて山田さんは私たちの思いをしっかり受け止め、脚本家の立場からその思いをお茶の間に届けてくれたんだと思える。その結果、多くの障害者が勇気づけられ、外に出るきっかけになった。本当に感謝している。

2023年12月18日に「クローズアップ現代　追悼山田太一さん」という番組が放送された（私も一瞬出演している）が、オンライン上にある「視聴者の声」には、障害者ばかりでなく障害のない人も「迷惑をかけてもいい」という言葉に影響を受け、救われたと書いている。私はこの言葉を「障害者の視点」からしか捉えていなかったが、山田さんはもっと広い視点でこの言葉を投げかけたかったのでは、と改めて思った。

山田太一さん、ありがとうございました。心よりご冥福をお祈りいたします。

能登半島地震　現地調査報告

ゆめ風基金事務局　植野　加代

現在ゆめ風基金では「ゆめ風ネット加賀　ひまわり教室」(金沢市)が窓口となり、被災地への物資配送などを行っています。また、様々な団体と連携し、週1回ZOOM会議を開き情報の共有をしています。

田鶴浜地区の様子→

日が経つにつれ被災地における様々な問題が浮き彫りになり、状況を把握すべく、施設への物資配送を軸とした現地調査を１月末に行いました。

志賀町の「学び舎あい」は、建物への被害も大きく、断水のため入浴は他市にある同法人の事業所に通われていました。この地区は地面がひび割れ倒壊している家屋も多く、揺れの大きさを痛感しました。また、志賀町には志賀原発もあり、現在停止しているものの原発にも被害が及んでいたら…と、東日本大震災の福島の被害が脳裏をよぎりました。

輪島市の「ふれあい工房あぎし」では約40名が過ごされていました。希望された物資の中には「猫のごはん」もあり、断水し過酷で不自由な生活の中で猫という癒しの存在があることがわかり、少しほっとしました。

穴水町の「グループホームふきのとう」へは日用品の他に、おりがみ、塗り絵、パズルなどもお届けすることができました。

物資配送をするにあたり、希望物資の聞き取り時のメモには、バケツの大きさや形状、折り紙のサイズやパズルのピース数などが詳細に記されていました。どの施設も職員の多くが被災者で、疲弊し心に余裕もない。その様な中でひまわり教室が、届け先の施設にはどんな方がどのように過ごされているのかなどを感じ取り、丁寧に聞き取りをされている様子がその手書きのメモから伝わってきました。

今回の災害は奥能登での被害が大きいため、広域避難をされる方が沢山います。障害福祉サービスに関連する事業所も訪問しましたが、受け入れ可能施設の情報など、相談に

応えるため必要な情報が少なく、相談に応じることが難しいとの声もありました。

状況は刻々と変わり、支援のニーズも物的なものから人的なものへと変化しています。また石川県のみならず、富山県、新潟県でも被害が出ています。ゆめ風基金は、様々な団体と連携しつつ息の長い支援活動を行っていきます。

被災地から能登地震によせて

能登地震と３．１１

特定非営利活動法人いわき自立生活センター　理事長　長谷川　秀雄

元日に能登半島で発生した最大震度7の大地震に驚愕した。

正月休みに一家で帰省し、楽しい団欒のひと時を送っていた家族が、家屋倒壊で亡くなり、ただひとり残された男性が「なぜ私がこんな目に遭わないといけないのか・・・」と話す姿を見ると、涙が止まらない。

現地では懸命の救助活動が続いており、私たちもできることを探して取り組んでいきたい。３．１１を経験した者として感じるのは、能登地震の特徴として、家屋倒壊が多いことである。３．１１の被害は、なんといっても大津波によるものが圧倒的であった。私たちの法人でも、海岸沿いに住んでいた利用者が１名津波で亡くなっている。

そして、土砂崩れで道路が寸断されてしまい、支援が届くまでに多くの時間がかかっていること。また冬季でもあり、衛生状態の悪化によりコロナやインフルエンザの感染症の拡大が起きている点も過酷さの一因となっているように感じる。

「能登で大地震」「大津波警報が発令」と聞いて、私がまっさきに思ったのは「志賀原発が危ない！」ということであった。福島第一原発の事故を連想してしまったのだ。実際３メートルの津波が襲い、外部電源が使えない事態も一部発生したとのこと。

地震のたびに、近隣の原発の状況が報道され「放射能漏れは観測されておりません」とのテロップが流れるのが当たり前になっているが、これっておかしくはないか？ 近隣の

火力発電所のことはどうして触れないのか？

誰でもわかる回答は「原発は内部に大量の放射性物質をため込んでいる」「それが環境に放出されると危険」である。

福島県では、大津波は沿岸の火力発電所も襲い、機器に大打撃を与え、どこも約半年間の発電停止に追い込まれたが、それで住民に避難指示が出されることはなかった。

繰り返し大地震が起きる日本列島の上に、このような危険な原発を、しかも津波の心配がある沿岸部に建てるのは、大人のやることではない。

今回もし福島のような大量の放射性物質の放出になっていたなら、道路が寸断され孤立化した能登半島の先端部分の住民は、どのような運命になったか。考えたくもないが、考えないといけないことだ。

「大地震を経験して」

フリースペースソレイユ（仙台市）　菅井　明里

年が明け、目に飛び込んできたのは能登半島地震の被害状況が映し出されたニュースでした。

それはとても悲惨な状況で、家が押しつぶされ瓦礫の山となった、その下にはたくさんの人たちが犠牲になっていて、いたたまれない気持ちになりました。

今回の能登半島地震は、13年前の3月11日に発生した「東日本大震災よる地震・津波」と重なるものがありました。

午後2時46分激震により事業所は傾き、立っていられない程の大きな揺れの後、急に雪が降り始めました。「津波が来ている」と携帯電話でニュースを知り、家に帰れない20余名の利用者さんと近くの指定避難所（小学校）に避難をしました。その夜は強い余震がくるたび「怖い・怖いよ」。と大声で泣き叫ぶ利用者さんたちに「大丈夫・大丈夫」と声をかけ、寒さに震えながら朝を迎えました。

避難者でぎゅうぎゅう詰めの教室で一般の人たちと一夜をともにしましたが、周りから何となく白い目で見られているようで、早朝、事業所に戻りました。そして津波で家を失った利用者の親子さんも含め15名、事業所で 3週間くらいの避難所生活をしたことは、今でも鮮明に覚えています。

その時、食堂として使用していた建物は大規模半壊、安心して使えなくなった建物を取り壊し、新たに建て替えすることにした際、多大なる資金援助をしていただきましたのはゆめ風基金です。本当に感謝申し上げます。

また、2022年3月16日夜に発生した福島県沖地震でも、グループホームの玄関ドアが壊れてしまいました。さあ、修理するにあたってどこからお金を工面しようか困っているときに、ゆめ風さんから「何か困っていることはありませんか」という優しいお言葉をいただきました。

おかげ様で玄関ドアが新しくなり、利用者さんも快適に過ごしています。

ご厚意に感謝！感謝！です。

ゆめ風基金さん、本当にありがとうございました。

■リレーエッセイ　災害と障害者　第七十八回

加藤　陽子

1977年生まれ。自立生活センター松山理事。46年間、障害と付き合っている。養護学校卒業後は福祉作業所に通いながら親元で生活。20歳の時、自立生活センター松山と出会い色んな壁にぶつかりながら、24歳で自立。楽しく生きてます。

私が災害で感じていること

私が災害を意識するようになったのは、今から13年前の東日本大震災からです。その日私は作業所に行っていて、松山は少し揺れるくらいでした。家に帰ってニュースをみたら、

日本と思えない光景がありました。ちょうど福島に友だちが行っている時でした。その日から何日もテレビは災害のニュースしか流れていませんでした。4月に福島に行っていた友だちが松山に帰ってきて、災害のときの状況や現在の状況の話を聞いて、私たちが今すぐできることは何かを考え、有志が集まって「被災地応援隊はなみずき」を立ち上げて、5月から募金活動をすることになりました。みんなで募金箱や看板やチラシを手作りして、月に一度募金活動を約3年くらい行いました。その間にも、被災地ふくしまの障がい者事業所の方が作った缶バッチやキーホルダーなどの販売に協力し、復興の支援にも協力しました。

2012年9月には「被災地障がい者支援センターふくしま」の代表の白石清春さんたちに来てもらい、「わたしたちにできること、そしてこれから～3.11被災障がい者からのメッセージ」をテーマに講演会を行いました。

2016年には熊本地震が起こり、被災地障害者センターくまもとにスタッフを派遣しました。また、同じ年にゆめ風基金の事務局長八幡隆司さんに来てもらって「大規模災害時の要支援者を考える研修会」を行いました。この年に「ゆめ風ネットまつやま」としてゆめ風ネットワークに加盟して、もっといろんな団体の方との出会いもありました。

2018年7月は西日本豪雨災害があり災害が続きました。豪雨災害をきっかけに「愛媛水害情報共有メーリングリスト」を作り、災害などの情報を共有して、それが支援活動につながりました。現在は「7.7を忘れない。いのちつながる防災メーリングリスト」に名前が変わり、募金活動のお知らせメールにも活用しています。

いつどこで災害が起きるかわからないとつくづく思います。現在も時々ですが、募金活動を続けることで自分自身が災害を忘れないようにし、社会にも私たちのようにいろんな人がいて、いろんな障害があることを知ってもらえるきっかけになれば良いと思い続けています。

2023年3月にはゆめ風基金の総会を松山で行うことができました。これも2011年の東日本大震災から募金活動が始まり、さまざまな人とつながりができたので松山でゆめ風の総会

ができたと思います。本当に嬉しく思っています。

私が今思っていることは災害の時は、特に重度の障害がある人は一人で逃げることもできません。なので日頃から防災意識をもつことが大切だと思いますが、なかなかできていないです。だけど、普段から近所の人との何気ないあいさつやコミュニケーションを取るのも防災につながるひとつだと思います。

私は１年前に生まれ育った地域に引っ越しをしました。近所の人は、みんな私が子どもの時から知ってくれています。

いつも顔を合わしたら、声をかけてくれたり、私も仕事に行くときにおばちゃんの顔が見えたら「行ってきます」と言ったりしています。おばちゃんも「気をつけてね」と言ってくれます。そして、おかずをくれたり、夜遅くなっても家の電気がつかなかったら気にかけてくれたりする事も大事だと思っています。

また先日は災害時に障害者をどう救助するのかの訓練を消防署の方が企画してくれて、わたしたち障害者団体と意見交換をする機会を作ってくれました。

障害によってサポートをしてもらいたいことが違うことを、消防の方に知ってもらえるきっかけになりました。特に見た目ではわかりにくい障害者の方は、災害の時は支援が後まわしになってしまうと思いました。誰だって障害者になる可能性があるので、災害の時には互いに助け合えるのが一番だと感じています。だけど、今の社会は個人、個人で近所の人の顔を知らないし、あいさつもあんまりしてない人の方が多いと思います。

でも普段から関わりがあれば、たとえその人が助ける事が無理でも、誰かに伝えて支援を呼ぶ事ができるかもしれません。

この原稿を書き始めた時に令和6年能登半島地震が発生してしまいました。自然の力にはとてもかなわないと感じました。

自分ができることから防災のことを考えて、介助者とも真剣に話しておかないといけないと思います。私たち障害者は助けてくれる人を一人でも多くつくるのも大事かなと思い

ます。そうして災害の時はみんなが被災者になるから、一人ひとりが自分の事として考えて、今あたたかい所で美味しい物を食べられることを当たり前ではないって思いながら生活をしていきたいです。

■ゆめ風３０周年企画　第１回

2025年(来年)は、阪神淡路大震災から 30年、ゆめ風基金発足30年を迎えます。過去の災害を忘れず伝え続けるため、発災当時、救援活動の中心として活動されていた方々に当時の様子を振り返っていただきます。

「阪神・淡路大震災」から２９年目を迎えて

社会福祉法人えんぴつの家　理事長　鋤柄　和成

はじめに、２０２４年元日に発生した「令和６年能登半島地震」でお亡くなりになった方々に謹んでお悔やみを申し上げますとともに、被災された全ての方々に心よりお見舞い申し上げます。私は奈良の実家に帰省中で、テレビの緊急地震速報とスマートフォンの緊急速報メールの後、ミシミシと家が軋むほどの大きな横揺れが数十秒続いた時、２９年前の「阪神・淡路大震災」の恐怖が鮮明に蘇りました。

１９９５年１月１７日午前５時４６分、神戸市長田区の自宅でその時を迎えました。私は１月１５日から東京の「ピープルファースト」の全国大会に参加して、１７日の午前７時に到着の夜行バスで神戸に戻る予定でしたが、数日前からの大雪で道路事情が良くなかったので、急遽予定を変更して新幹線で１６日の夜に神戸に戻っていたのです。それからわずか数時間後の事でした。

自宅は長田区の北部の山側にあったのが幸いし、建物の被害はそれほど大きくありませんでしたが、水道もガスも止まり、電話も通じにくい状態で、午前７時過ぎに電気だけは復旧したので、テレビを点けてみたところ、大きく倒壊した阪神高速道路の映像が写し出されました。ライフラインは絶たれ、電車やバスなどの公共交通機関も動かず容易

に移動もできない中、５歳と１歳半の子どもを抱え、数日間は家族を守る事だけで精いっぱいで、私は、えんぴつの家の一員としてなすべき事が何もできませんでした。

そんな中、えんぴつの家は、被災障害者の生活を支える活動の拠点として、震災ボランティアが寝泊まりし、救援物資の基地となりました。これが後に「被災地障害者センター」となるわけですが、全国の仲間に支えられ、少しずつ日常を取り戻していきました。何の備えも心構えもなかった２９年前と比べると、大きな自然災害が起こる度に、市民レベルのノウハウは着実に蓄積されています。この原稿のご依頼をいただいた時には、このような事態になるとは思いもしませんでしたが、ゆめ風基金と共に、一日も早い復旧・復興に向けて能登半島の被災地に寄り添って行きたいと思います。

■応援団からこんにちは vol.8

災害時にはより小さな地域単位、「町」や「村」での情報が必要になってきます。そこで、いざ、災害が発生したときに「地域単位」で情報収集してくださる団体を募集することにしました。それが「ゆめ風応援団」です。

自立生活センター富士（富士市）　代表　望月　亜矢子

静岡県富士市で「どんなに重い障害があっても、自分らしく地域の中で主体的に楽しく生活する」をモットーに障害者が主体となって活動をしています。

主な活動内容として、自立生活に必要な心構えやノウハウを学ぶ「自立生活プログラム」、同じ立場や体験をした仲間だからこそ分かり合える「ピアカウンセリング」、障害の有無関係なく、誰もが暮らしやすい社会になるよう「啓発活動・権利擁護活動」を行っています。

私自身も一緒に活動する仲間も、地域で介助者のサポートを 24時間受けながら生活していますが、地域へどんどん出かけ、感じたことや疑問に思ったことはそのままにせず発信していくようにしています。地域でのイベントやお祭り・文化祭、防災訓練などに積極的

に参加し、地域の方たちと繋がりを持つことは本当に大切だと日々感じています。

富士市の防災危機管理課さんとも親しくさせていただき、毎年行っている防災イベント「ふじ Bousai」にもブース参加し、ダンボールの間仕切り展示＆体験のコーナーを担当しています。赤ちゃんの授乳や着替え・トイレで活用できる背丈の高い間仕切りと、避難生活でのプライバシーを守る間仕切りを防災倉庫に行政が備えてくれていますが、自分でできる「自助」の部分は日頃から取り組んでいこうと伝えています。

私たちの活動は終わりがなく継続していくことがとても大切で、これからも仲間と一緒に楽しく活動していきます。

静岡障害者自立生活センター（静岡市）　代表　小久江　寛

「台風15号から得た教訓」

静岡県では、2022年9月、台風15号により浸水や土砂崩れなどの大規模な水害が発生しました。

当センターのある静岡市駿河区においても、長時間の停電や断水により、ヘルパーを使ってひとり暮らしをする仲間たちが一時は生命の危機に瀕しました。

彼らは人工呼吸器を使用しており、定期的な痰の吸引などの医療的ケアを必要とする独居の重度障害者です。

約12時間に及ぶ停電で、1名は痰の吸引が出来なくなり、もう 1名は人工呼吸器が止まりそうになったところをあらかじめ自宅に備えていた発電機で何とか乗り切りました。残暑厳しい中、エアコンが使えなくなったことも、体温調節が困難な重度障害者にとっては過酷な経験だったようです。

今回のことを教訓として、地域で生活する障害者たちは、自分の家に発電機や予備バッテリーを用意しておく（自助）ことの大切さを知り、当センターとしては、貸出用の予備バッテリーや足踏み式吸引機を常備しておく（共助）教訓を得ました。

そして、行政に対しては、地域で暮らす医療的ケアが必要な重度障害者に対しての災害時のサポート体制の構築（公助）を、障害当事者団体の立場から粘り強く訴えていきたいと考えております。

皆さん、共に声をあげましょう！

■カンパを頂いた団体　2023/10-2023/12

お店に募金箱を置いてくださったり、街頭募金やバザー、イベントで集めてくださったりしています。本当にありがとうございます。もしも、記載漏れがありましたらご連絡ください。

10/6　障害者活動センターあゆみ（安芸郡）
10/12　ほっとはあと　（総社市）
10/20　出発のなかまの会（大阪市）
11/15　生野みんなの家（大阪市）
12/4　フジテクノ（川越市）
12/4　豊能障害者労働センター（箕面市）
12/11 出発のなかまの会（大阪市）
12/11 カトリック枚方教会（枚方市）
12/13 工作室はらっぱ　（亀田郡）
12/13　ABC研究所（北九州市）
12/16　日本聖公会大阪教区婦人会（大阪市）
12/18　ヒューマンネットワーク熊本（熊本市）
12/20　ミニヨンショップ（川西市）
12/22　清心中学校・清心女子高等学校（倉敷市）
12/25　ベル・カラナ（越谷市）
12/26　ゆうとおん（八尾市）
12/28　野村福祉園（西予市）
12/28　ヌヴェール愛徳修道会（伏見区）
12/28　聖愛園（大阪市）
12/30　楽風（さいたま市）

■事務局の動き 2023/4～6

2023年10月から12月の動きを一部ご紹介します。

★毎週月曜日：事務局会議　★毎週金曜日：新HP打合せ

10/3　むくのき学園（東淀川区）講演

10/4　BCP（事業継続計画）研究会
10/6　ゆめ風であいましょうｉｎ東京
10/10　茨木市事業所連絡会講演
10/11　ポジティブ生活文化交流祭（ポジ祭）運営委員会
10/14　摂津市広域避難体験顔合わせ
10/16　豊中市障害者居宅介護・移動支援事業者連絡会講演
10/17　箕面市生活と労働推進協議会ＺＯＯＭ補助
10/18　ゆめごよみ105号編集委員会
10/19　おおさか災害ネットワーク（ＯＳＮ）世話役会
10/20　ポジ祭出展者説明会
10/21・22　摂津市広域避難訓練
10/24　尼崎市自立支援協議会講演
10/27　柴島中学校中学生プロジェクト
10/27　ハートフル大東講演
10/30　神戸学院大学講演
11/4　BCP研究会
11/10　関西STS連絡会セミナー参加
11/15　名古屋市講演
11/17　宮崎県相談支援専門員連絡協議会講演(ZOOM)
11/22　ＢＣＰ研究会セミナー
11/23　ポジ祭
12/1　亀岡福祉会家族の会講演
12/5　OSN世話役会
12/6　日本自立生活センター講演
12/9・10　箕面市人権フォーラムZOOM補助
12/15　中堅介護職員向け実践セミナー講演
12/18　理事会
12/20　BCP研修会(ZOOM)

■会計報告（PDF版をご覧ください）

■そよ風、つむじ風、六甲おろし/各地からの風だより/2023.10-2023.12

▼戦争も原発も増税もいらない！（大阪市）

▼災害は止められないけど、原発は止められます（伊勢市）

▼「助け合う」気持ち。大切にしたいですね（金沢市）

▼８０歳を過ぎても元気で過せることに感謝して（我孫市）

▼自然災害で、まだ復旧できていない家屋などの修繕に使ってもらえれば（足柄上郡）

▼2024 年少しでも平和な世の中になりますように・・・（大阪市）

▼ウクライナもガザも弱者がおだやかに過ごせる日が早く来る事を祈っています（宝塚市）

▼日々・戦場の・苦しみのニュース、眼、耳を塞げばいい・ということでもありません（杉並区）

▼わずかでも大事なお金。つかい道まちがわない政治をつくらないと（さいたま市）

▼だれでもがいつ、お世話になるか分かりません。「お互い様」やさしい言葉ですね。宜しくお願い致します（足立区）

▼もう何を言ってもダメだ！でもこれで沈黙してしまったら、ヤツラの思うつぼ（武蔵野市）

▼「防災」についてもう一度地域でとりくんでいこうと思っています。すこしでもお役にたちますように（横浜市）

▼小出さんのお話を小室さんの歌と共に伺うことができ心にしみました。感謝（世田谷区）

▼防災の BCP に関して、皆で楽しむ。意識と経験の共有が大事、とのこと。その通りと思いました（横浜市）

▼Xmas献金です♡世界はますます厳しい状況ですが、希望を失わずにいたいと思います（茨木市）

▼心おだやかに暮せる日が続きますよう‼（東京都北区）

▼次から次へと起こる出来事に流されてしまいそうな自分に大切なことを教えていただいてます（和賀郡）

▼少しずつです。「継続は力なり」これからもよろしくお願いします（奈良市）

▼災害時のゆめ風の迅速な対応には頭が下がります。これからもお困りの場所への一刻も早い支援に期待しています（鹿足郡）

▼子ども達が良き年を迎えられますように（河北郡）

▼また1年、無事に過ごせたことに感謝して、寄付を送ります。お役立てください。(横須賀市)

▼つらい中におられる方が少しでも暖かく過ごせます様に一お祈りしています。(大阪市)

▼小出裕章さんの話（3ページ）とてもよかったです。多くの人に知って欲しい内容でした（八王子市）

▼愚かな戦争やめてください。皆の幸を祈ります（荒川区）

▼地球温暖化というのは激しく厳しい気候になるということなんですね。弱者は耐えられません。(入間市)

▼特殊詐欺の横行、政治家の劣化と暴走。悪い日本になりました。ゆめ風は日本に残っている良心の一つです（さいたま市）

▼ガザにはろう学校があると聞き、障害者が戦争状態でどのような目にあうのか、胸がしめつけられますね（豊島区）

▼災害のない１年である様に祈っていましたが残念でした。元気で生きられた事を祈念して（太田市）

▼ゆめ風だより№105よくわかりました。応援しています（福岡市）

■編集後記

正月から能登半島地震が起きてしまいました。奥能登の状況は阪神淡路大震災をも上回る悲惨な状況です。1.5次避難所というのも初めて聞くほど、現地での生活が難しい人も多くいますし、とどまって生活されている方も困難な生活を強いられています。被災された方々に心からお見舞いを申し上げるとともに、息の長い支援を続けていきたいと思っています。

ゆめ風基金のＳＮＳやウェブサイト